

就職活動につなげる学生生活動評価に関する一考察

A Study of Evaluation for Students' Activities in getting Jobs

大久保 等

要約 経済産業省は、職場で求められる能力（「社会人基礎力」）について、「社会人基礎力に関する研究会」を発足させ、2006年2月に社会人基礎力の育成・評価のための報告書を公表した。「社会人基礎力」とは、「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていくうえで必要な基礎的な能力」と定義され、「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チームで働く力（チームワーク）」の3つの能力で構成される。本研究は、就職活動につなげる「社会人基礎力」に基づいた学生生活動の評価に関する一考察である。

I. はじめに

経済産業省は、経済活動を担う産業人材の確保・育成の観点から、職場で求められる能力（「社会人基礎力」）について、2005年「社会人基礎力に関する研究会」を発足させ、同研究会は2006年2月に社会人基礎力の育成・評価のための報告書を公表した。

「社会人基礎力」とは、「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていくうえで必要な基礎的な能力」と定義され、「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チームで働く力（チームワーク）」の3つの能力で構成されている（経済産業省）。また、それぞれの能力について、「前に踏み出す力」は「主体性」、「働きかけ力」、「実

行力」で構成され、「一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力」、「考え抜く力」は「課題発見力」、「計画力」、「創造力」で構成され、「疑問を持ち、考え抜く力」、「チームで働く力」は「発信力」、「傾聴力」、「柔軟性」、「状況把握力」、「規律性」、「ストレスコントロール力」で構成され、「多様な人々とともに、目標に向けて協力する力」と定義されている。

筆者は、現在、学務分掌として「就職支援」担当であるが、過去に平成10年度から6年間学生部に所属し、学生会担当として、特に毎年度の学園祭の立案計画、準備作業、運営に顧問教員として関わった。現在「就職支援」担当として、「社会人基礎力」を構成している

個別能力をみた場合、これらの能力は、学生会執行部役員の各委員が学生会行事を立案計画し、準備作業を進め、当日運営と後始末作業を行う際に要求される能力そのものであると考える。また、各サークル活動においても、活動計画し、準備し、運営し、後始末が行われている。

そこで、この考察では、学生時代の活動実

績を、就職活動で自己PRする「履歴書」の他に、現在多くの大学・短期大学で使用している、就職希望学生本人の主観に基づいた文章表現による自己申告式の「学生時代の活動」記録でなく、第三者による三段階評価を入れた、より客観性を持たせた「学生時代の記録」として企業の人事担当者にアピールできないかを考察した。

II. 学生時代の成績評価と社会に出てからの活躍の違い

筆者は、現在までに本学で17年の教育職の経歴を持つ。その経験の中で、いつも疑問に思ってきたのは、本学における科目の成績評価と、その学生が就職してから各職場で活躍する活躍の程度には必ずしも相関がないという事実である。ここで、各職場で活躍する活躍の程度とは、各就職先における職場の上司や人事担当者の評価を指す。後日卒業生の働いている職場に企業訪問して上司の話を聞いたり、翌年度の就職ガイダンスで本学卒業生を採用した企業の人事担当者と面談した際に、学生時代はさほど良い成績で無かった学生が、「職場では大変よく頑張っており、次年度の学生も是非貴校から採用したい」という話を聞く。逆に学生時代の成績が全て「優」評価で卒業した学生の就職先での評価は、当方が想像していたほど良い評価でない場合がある。それは、採用した側からすると、「それなりに真面目に仕事をしてくれるが、期待以上では無い」というものである。

これは一体どういうことなのか、筆者はいつも疑問に思ってきた。学業を頑張った結果である本学の成績評価が卒業後の仕事ぶりの

評価に直結していないのである。ちなみに筆者の所属するライフデザイン学科卒業生の就職先は、研究職や技術職でなく、販売や経理事務、営業などの一般職である。

その原因と思われることの一つは、学校で学ぶ科目の成績評価は、あくまでその科目の学習すべき内容をどの程度まで学修したかの結果であって、学校で学ぶ科目は、卒業後、社会生活の中で必要となる知識・技術、考え方や、学生本人の意欲、実行力等のすべてを網羅している訳ではない、ということである。

特に、「社会人基礎力」で定義される「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく」のに要求されている「前に踏み出す力(アクション)」、「チームで働く力(チームワーク)」は、個人学習を中心とする学校(特に大学・短大教育)の科目の中では、中心的な教育項目として扱っていない内容である。これらの内容は、どちらかと言えば、中学・高校の部活動や生徒会活動、大学・短大のサークル活動、学生自治会活動の中で、同じ目標を共有する仲間が、目標達成に立ちはだかる困難を克服しながら学習、体得していく内容

である。

過去においては、中学・高校生に部活動参加を全生徒に半ば強制していた時代があった。そのため、本人が幼少時期に多様な人との接触を苦手にしていても、半ば強制的に学習機会を与えられていたが、現在では生徒の自主的な希望が重んじられるようになったため、近年入学してくる学生は、中学・高校時代に部活動に参加しておらず、短大生になってもサークル活動に参加しない学生が増えている。これは、就職活動で履歴書の書き方を相談にきた学生に聞き取り調査して得た、ここ数年の学生の全般的傾向である。学生の中

には、放課後や休日にアルバイトをしており、学校と家庭以外の人間関係を築いている者もいるが、アルバイト先での人間関係は上司と部下の指示命令の関係であり、問題が発生した際、自分も加わって協同して解決策を探るような、切磋琢磨するような人間関係にはなっていない。

よって、過去には殆どすべての入社希望の学生の中から入社試験で成績優秀者を採用すれば、自動的に「社会人基礎力」をも身に付けた新入社員を確保できたものが、現在では確保できにくくなっているものと考えられる。

Ⅲ. 「学生活動評価書」を「成績証明書」の副書類として添付する試み

Ⅱで述べたように、現在では、企業は、入社試験の成績優秀者を採用すれば、自動的に「社会人基礎力」をも身に付けた新入社員を採用することが困難になってきている。現状では、企業の人事担当者は、入社希望学生の持参した履歴書に書かれた「自己PR」や入社「志望動機」の内容を参考にして、また面接試験における本人の「学生時代の活動」を聞き出して、「社会人基礎力」があるかどうかを判断していると思われる。

しかし、普段から、サークル活動や学生会活動、または学生生活の中で改善点を探し出し、仲間をリードして積極的に行動している学生の中には、大した成果が上がらなかったという理由で、「自己PR」に記載する体験だと考えない学生もいる。また、入社試験の面接担当者側も、一回や二回の面接試験で、入社希望学生の適性や入社後の将来性を的確

に判断できると断言できる人は少ないと思われる。入社試験で可否を判断するのは、あくまでも入社後の業務に適性があると予想され、将来性も期待できる、という可能性の判断に過ぎない。

そこで、この「社会人基礎力」に関する評価を「学生活動評価書」として、入社試験の提出書類である「成績証明書」の副書類として添付できないかを考える。

具体的には、表1のように「社会人基礎力に関する研究会」で報告された「社会人基礎力の育成・評価」に示された観点に沿って、学生が所属するサークルの顧問教員や監督、学生会の顧問教員など、学生に助言・指導を与えている立場の者が「A:大変能力がある、B:ある程度能力がある、C:能力が不足している」の三段階評価で評価するものである。

IV. 「学生活動評価書」の活用法

「学生活動評価書」は、就職希望する卒業年次生全員を対象に強制されるものではない。

学生本人の希望により、学生が所属する学内団体の顧問教員や監督から発行される書類として規定する。学生がどの学内団体にも所属していない場合は、当然ながら「学生活動評価書」は添付されない。また、学生が複数の学内団体に所属していた場合、学生本人の希望により複数の団体から評価を受けても良いし、その中から一つの団体を選んで良い。

「学生活動評価書」は、あくまで「履歴書」に書かれた「自己PR」の内容、または学生自身が気付いていない特性を、第三者の評価で強化、補填する性質のものであるから、学生は「良好な評価が得られない」と考える場合には、副書類として申請しなくてよい。

ただし、企業の人事担当者側としては、「学生活動評価書」の添付があったほうが、入社試験受験学生をより詳しく理解できる事になる。

V. 「学生活動評価書」の「ゼミナール」活動評価への応用

(1) 「学生活動評価書」は、「ゼミナール」の「活動評価書」としても活用できる。「教授のもとで、特定のテーマについて研究し、報告・討論する」ゼミナールでは、「研究テーマについて、どこまで到達できたか」の結果が、「科目評価」の対象になると思われるが、結果に結びつかなくても、少人数の研究グループの中で「社会人基礎力」に問われている「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チームで働く力

（チームワーク）」の能力は鍛えられるものと考えられる。よって、「成績証明書」とは別に「学生活動評価書」の評価対象になり得ると考える。

(2) 「ゼミナール」の「活動評価」に使う場合、研究テーマによっては「個人研究」中心に行われる研究形態の場合もある。その場合は、「チームで働く力（チームワーク）」の評価は、空欄となる。

VI. 「学生活動評価書」の問題点

「学生活動評価書」は、学生の就職活動に活用できる書類として提案するものであるが、大学教員の多くはその分野の専門家であっても、学生を含む若年者を指導教育するための訓練を受けていない場合が多い。その為、「ゼ

ミナール」活動の「活動評価」に応用した場合、教員の学生に対する個人的な印象が「評価」に繋がる可能性がある。その為、評価分類を細分化せず、「A：大変能力がある、B：ある程度能力がある、C：能力が不足してい

る」の三段階評価と単純化し、且つ、卒業年次生の中で「A」評価は何人いるのか、という所属する全卒業年次生における各評価段階

の人数も記載を義務付けるようにした。これによって、教員の個人的な印象を多少とも排除し、公平化できると考える。

Ⅶ. 「学生活動評価書」の学生指導への利用

「学生活動評価書」を入学生に示すことにより、在学中にどういう能力を鍛えたら良いのかが明確になり、近年インターネットやゲームの普及によって、他人と協同する事を避け

て、個人の時間を中心とした生活になり勝ちな学生に、サークル活動や学生会活動など、他人と協同する場面に積極的に取り組む姿勢を指導する事が可能になる。

Ⅷ. お わ り に

(1) 今回、本研究の根拠を示すため、本学卒業生で過去3年間の学生会活動経験者15名に対して「在学中の学生会活動は、社会人となって各職場で仕事を遂行するうえで『社会人基礎力』を養うのに良い訓練になったかどうか」アンケート調査を実施した。しかし、アンケート用紙を卒業生の実家宛に送付したため本人に届かなかったためか、アンケートの回収が2枚しかできず、数値的な根拠を示すことができなかった。

2人の結果を見ると、「チームで働く力（チームワーク）」の多く項目については、「学生会活動が大変良い訓練になった」と答えている。他には、「前に踏み出す力（アクション）」の「主体性」と「考え抜く力（シンキング）」の「計画力」が「大変良い訓練になった」と答えているが、他の項目は回答が分かれた。特に、「実行力」、「創造

力」、「ストレスコントロール力」は、二人とも「学生会活動が何の訓練にもならなかった」と答えており、学校や家庭、社会から出来上がったものを与えられる生活中心の現代の学生像を見た思いがした。また、ストレス社会であることも改めて感じた。

(2) IIで述べた「学生時代の成績評価と社会に出てからの活躍の違い」について、「社会人基礎力」の観点から大学の科目評価の評価基準を考えると、「前に踏み出す力（アクション）」や「考え抜く力（シンキング）」は科目評価の基準と重なる部分があると考ええる。特に、「考え抜く力（シンキング）」は科目評価の基準と一致すると考える。しかし「チームで働く力（チームワーク）」は、科目内容によって異なり、科目評価と重ならない場合が多いと考える。

参 考 文 献

- 1) 経済産業省産業人材政策室 (2006) : 「社会人基礎力に関する研究会『中間取りまとめ』報告書【概要版】」
- 2) 経済産業省産業人材政策室 (2006) : 「社会人基礎力に関する研究会『中間取りまとめ』報告書【本文】」
- 3) 経済産業省 (2008) : 「今日から始める 社会人基礎力の育成と評価」

表1 学生生活動評価書

学生生活動評価書

学籍番号 _____ 学生氏名 _____

1. 学生生活動評価のための基礎データ

学内団体名			
学内団体の主な活動内容			

学生の所属年月	年	月	
団体内での主な役割分担		→	→ (最終役割分担)

2. 同学年次生内の相対評価（評価時点での総合評価の人数）

所属同学年次生数	名
A評価人数	名
B評価人数	名
C評価人数	名

（注）評価時点で団体を途中離脱している学生の場合は、この欄に含まれない。

3. 学生生活動評価

項 目	評 価		
前に踏み出す力（アクション）			
主体性	A	B	C
働きかけ力	A	B	C
実行力	A	B	C
考え抜く力（シンキング）			
課題発見力	A	B	C
計画力	A	B	C
創造力	A	B	C
チームで働く力（チームワーク）			
発信力	A	B	C
傾聴力	A	B	C
柔軟性	A	B	C
状況把握力	A	B	C
規律性	A	B	C
ストレスコントロール力	A	B	C
総合評価	A	B	C

（注）A：大変能力がある、B：ある程度能力がある、C：能力が不足している

上記の学生は本学内団体に所属し、上記のとおり学生生活動を評価する。

平成 年 月 日

大学名 _____ 学内団体名 _____

評価者役職名 _____ 名前 _____ 印